

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	170502769		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花清田館		
所在地	札幌市清田区清田6条1丁目11番15号		
自己評価作成日	平成25年6月23日	評価結果市町村受理日	平成25年8月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様へその人らしく、安心した生活を送って頂ける様支援し、ご家族様や地域住民の皆様と支え合う関係に努めています。
 ・自然が多い住宅街に建っており、隣には公園が隣接し四季折々の草花を鑑賞しながら散歩が出来る良い環境である。
 ・毎年ホーム主催の夏祭りを町内会様の参加協力の元開催しており、地域の方々が多く訪れ交流を深めている。町内会のジギスカンパーティー等の行事にもお誘い頂く。町内会役員様より「菜の花さんへ行事等へは全面的に協力しますよ」との言葉も頂き良い関係を築けている。
 ・ご家族様、ホーム、医療が連携を行い安心した生活が出来る様支援させて頂いている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=trve&JigyosyoCd=0170502769-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 7 月 19 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

多数のグループホームを展開している法人の蓄積された運営ノウハウが当ホームにも活かされており、職員も法人理念とケア理念を理解して忠実に実践し、利用者一人ひとりに合わせたケアサービスに徹しています。このため、ホームの職員は常に親切で明るく笑顔があり、館内も清潔が保たれているため利用者が安心して過ごせると家族から感謝され、高い評価を頂いています。四季の自然環境に恵まれたホームのため、利用者は公園や周辺住宅の花壇を鑑賞しながらの散歩や菜園の収穫物を楽しんだり、庭の四阿(あずまや)で寛ぐなど変化に富んだ暮らしに満足しています。ホームは、住民との交流も盛んで地域との一体感があり、利用者の地域行事参加ばかりでなく、ホームの夏祭りには家族や住民の熱心の参加協力で地域行事として喜ばれています。また、自然災害を含めた避難訓練を年4回実施し、発電機やジェットヒーター設置など災害時対策にも力を入れており、介護しやすい建物内部構造を含めて質的レベルの高いホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念の一つづつを毎日の目標に掲げ、理念の具体化、実践に取り組んでいる。個人面談や職員との話し合いの際、理念に立ち返り自分達の基本を確認、見直しを行っている。新人オリエンテーション時もケア理念の重要性、実践の説明を行っている。	職員は、名札の裏に理念記載のカードを添付の上、毎朝唱和し、その日の目標を設定してケアに努めています。さらに、管理者と職員の個人面談の際にも理念を確認してケアに活かすようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の際は町内会より声掛けを頂き、ジギスカンパーティ等へ参加させて頂く。交通安全週間の際は登校時のお手伝いをさせて頂き、小学校の教頭先生よりお礼の報告を頂く。毎年夏祭りを開催し地域の皆様より参加協力を頂く交流を行っている。	利用者は町内会諸行事へ積極的に参加しており、ホームの夏祭りには家族と共に住民が参加協力して楽しんでいます。さらに、住民の避難訓練参加やホーム周りの草刈り手伝いなどの地域との交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の症状等の情報をお伝えしている。ホーム行事へ地域の皆様の参加協力や町内会行事に参加させて頂き、認知症への理解と支援方法を活かせる様交流を行っている。避難訓練では認知症の方の見守りや車イス介助のお手伝い頂ける。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活や行事等の取り組み方針・実践内容・評価等の状況報告を行う。ご家族様や参加頂いた方々より多くの意見を頂きサービスの向上に活かしている。地域介護予防センターの参加も頂いており、これからの地域生活生活の強化の話も行う。	会議は、多数の町内会関係者、家族等の参加を頂いて定期的に開催しています。会議ではプロジェクターを使用して分かり易く説明しており、災害対策や参加者からの質疑応答など活発な意見交換が行われ、ホーム運営に活かすようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の担当者へ利用者の相談、ご家族様よりの質問の相談をさせて頂く。運営推進会議において地域包括支援センター職員に参加して頂き、ホームにおける取組等を報告し、アドバイスを頂いている。	ホーム運営等について常時、電話等で相談していますが、相談内容に応じて直接、区担当者を訪れて報告や話し合いを行って行政との協力関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の施錠は行っておらず、夜間以外の玄関施錠も行っていない。社内研修、外部研修へ参加し、内部研修の勉強会にて身体拘束の情報の共有を図り学んでいる。言葉による拘束をはじめ、身体拘束の無いケアを実践している。	職員は、身体拘束防止関連の本社研修会や外部研修会に参加していますが、ホーム内部でも勉強会を実施して実践に取り組んでいます。各種マニュアルや資料も整備されており、玄関の施錠も夜間帯のみです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、外部研修へ参加し、内部研修時の報告や勉強会により虐待の理解、職員間の情報の共有を図り虐待の無いケアを実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、外部研修への参加にて学ぶ機会を持っている。地域で自立した生活が送れるよう役所等へ確認し、ご本人様、ご家族様と相談を行い活用出来る様支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は本社職員も同席し説明を行っている。疑問があった際は何度でもご質問を頂き、都度説明を行い理解と納得を図っている。改定等の際は文章としてご家族様へ郵送と共に口頭での説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望をお受けするためのアンケートボックスを設置。毎年家族会を開催、運営推進会議と共に頂いたご意見の内容・検討の記録を郵送している。年1回意見や要望を表出して頂けるように全ご家族様へアンケートの実施を行っている。来館の際は近況報告と共に個人記録の開示を行っている。	ホーム来訪の家族と利用者の様子を話し合っていますが、電話やお手紙、毎月発行のホーム便りでも近況を伝えています。また、本社で毎年、家族アンケートを実施して要望や意見等を把握しながらホーム運営に反映させています。	家族のホームに関する大きな関心事の一つに職員の異動があります。ホームでは来訪家族へ伝えたり、お便りでお知らせしていますが、家族の不安感を払拭するため重ねて職員の異動状況報告や新職員からのメッセージをお便りに記載するなどの取り組みを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議にて職員の意見、提案を聞く機会を設け、意見交換や検討を行っている。管理者は職員と個人面談を行っている。	職員は、管理者と日常業務や本社職員が参加するユニット会議の中で自由に話し合いをしています。さらに、年1回の管理者と職員の個人面談が有るため、その際に職員の意見や提案を聞くなど両者間の意思疎通が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善手当、年度末手当等に反映されており、休日出勤手当、時間外手当がある。新人職員へは努力や業務実績において、早い段階での準社員への登用がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、外部研修。資格取得のための研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者主催の夏祭りに参加し交流を行っている。清田館の中庭に東屋を設置し同事業所との交流を多く持てる取り組みを予定している。同区内の管理者連絡階へ参加し、勉強会や研修、清田区17施設参加の交流会に参加し交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問等にて、ご本人様よりの要望・不安とされている事を傾聴。ご家族様との関係を大切に、ホーム入居に際する疎外感を持つ事無く安心して頂ける関係作りと支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護はご本人様だけでは無く、ご家族様も安心して生活をして頂くための物である事をお伝えし、いつでも来館出来、安心して話しやすい雰囲気作りに努めている。不安や要望を傾聴し、返答出来る関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様との話し合いの中で生活基礎シートを作成し、今必要とする支援をスタッフ間で話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの状況や体調を考慮し、家事等出来る事をスタッフと一緒に。家族の一員と思える様な関係を築ける様に支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも訪問して頂き、日々の生活を詳細にお伝えすると共に個人記録の開示を行っている。敬老会やクリスマス会等ホーム行事にも参加頂き、ご家族様との外出や外泊等一緒に過ごせる時間を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟やお子様がお孫様、ひ孫様と一緒に来館され、外出、外泊される方もいらっしゃる。ご家族様が安心して何度でも来館出来る様に、ご本人様にとって大切な方がいつでも来館出来やすい雰囲気と支援に努めている。	利用者の高齢化と重度化が進んでいるため馴染みの場所への外出希望は少ない状況ですが、家族の協力を頂きながら墓参りや馴染みの場所などへの外出を支援しています。また、利用者の年賀状や電話なども手伝いながら馴染みの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を理解し、孤立しない様スタッフの関わりを行う。集団で出来るレクや体操を行い、家事のお手伝い等共同で出来る事を通じ、支え合える支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も病院受診時に必要なホームでの生活状況や情報の提供を行っている。利用終了後も相談出来る場がある安心感を持って頂ける様支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努め、困難な方には日々の関わりによって行動や表情の変化による対応。ご家族様への情報確認等による新たな発見や理解が出来る様努めている。	職員は、日常のケアと利用者の表情や行動から思いや意向を把握しており、2階ユニットでは今年から「わたしノート」を活用しています。把握困難な際には本人本位に、根気よく理解するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様より情報を伺う他、日々の関わり合いによって新たに気付いた点をスタッフ間の情報共有にて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、心身状態によって一日の過ごし方の工夫や、常に新しい力の発見に努め職員間の情報の交換、共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、定期的なアセスメントとは別に新たな課題を発見した際はそのケアの在り方をスタッフ間で確認話し合い、ご本人様、ご家族様、主治医や本社看護師と話し合い介護計画に活かせる様努めている。	利用者のケアプランはセンター方式を採用し、職員の担当制で毎月のモニタリングを実施しています。さらに、家族や主治医とも話し合いながら3ヵ月毎にアセスメントを行い、全職員でプラン内容を検討しながら定期見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活で、どの様な行動があり、どの様なケアを行い結果がどうであったかを記録に記載しスタッフ間で情報を共有し実践を行い介護計画に活かせる様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に際し、数名づつ近くの喫茶店へ出かけたり、同事業所の夏祭りを見学に行く等の支援を行っている。ご本人様の病状やご家族様の状況によって緊急時の対応、連絡方法を速やかに行える支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の地域行事や、町内会の植花の際の花植え、お楽しみ抽選会に参加し得意な分野の力を発揮する等、地域の方々と楽しんで生活出来る様支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人様、ご家族様と話し合い、かかりつけ医の確認を行う。月2回の訪問診療を受け、緊急時は主治医による往診や専門医の手配を行ってもらう。ご家族様の希望時は主治医による病状の説明を行って頂いている。	協力医療機関による月2回の定期訪問診療と週1回の運営法人所属看護師によるチェックを実施しています。利用者や家族の希望で他の医療機関にも家族付き添いを原則として自由に受診していますが、病状に応じて職員が付き添い支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の本社訪問看護師による健康管理をおこない、変化や状況を伝え指示を受ける事が出来る。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換、入院中の定期的面会を行い状況説明を頂く。その際の情報はホームからご家族様連絡を行う。退院時はご本人様、ご家族様、病院関係者とホームで生活する上で気を付ける事や対応の相談を行う。また主治医と病状やホーム生活の話し合いを行い、急変時対応の関係作りを行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化した場合の指針の同意書を頂いている。重度化した際はご家族様、担当医、本社、ホームによる話し合いの場を持ち、段階的に方針を確認し合う。定期的な状態の連絡を行いながらケアを行う支援に取り組んでいる。	利用者の入居時に、重度化に関するホームの対応を説明し同意書と重度化時の延命についてのアンケートを頂いています。利用者の状態変化に応じて家族や医療機関とも相談し、今後のケアの進め方などを慎重に検討しながら支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、社内・外部研修の参加により訓練を行う。内部研修にて勉強会を行い、緊急時対応マニュアルを作成している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会にて年4回の火災避難訓練を行っている。地域住民の皆様にも参加して頂き、町内会役員様より万が一の際の避難場所提供のお話を頂く。震災時の発電機、ジェットヒーター、避難救急袋を用意し避難場所等地域との協力体制を構築している。	自然災害対策を含めて年4回の避難訓練を消防署の指導と住民の参加を頂きながら実施しています。ホームは、災害時に備えて発電機など各種設備を充実し、飲食料品や物品類も準備しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア理念で謳っている「常に心を大切にします」とあるように、入居者様への尊厳と尊敬の念を持った言葉かけや関わり合いに努めている。特に排泄時の声掛けやケアには配慮し対応している。	職員は、接遇や虐待防止など各種研修を通じて利用者一人ひとりの人格尊重とプライバシーを損ねないよう努めており、特に排泄関連には十分配慮しながら支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身の希望が言える様な声掛け、環境作りに努めており、意思表示困難な入居者様へは表情の変化等から汲み取り、自己決定して頂ける様に働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務や決まり事を優先せず、入居者様を最優先とする。入居者様の状況やペースに合わせた支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の交換時、季節に合った会話をしながら、その季節に合った服選びや身だしなみが出来る様に支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態に合った後片付け等を積極的に手伝って頂き、味見を一緒にして頂く等を行っている。職員と一緒に会話をしながら楽しく召し上がって頂ける様に努めている。	本部栄養士による献立を利用していますが、利用者の嗜好を反映させ、四阿（あずまや）でのバーベキューや外食など変化のある食事を楽しんでいます。食事は、利用者と職員が一緒に取り、話し合いながら和やかに過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分量を記録しており、摂取量の変化を確認する事が出来る。水分摂取量の少ない方へはご本人様好みの飲み物やゼリー等の提供を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛け・介助にて口腔ケアを行っている。出来る限りご本人様に歯磨き、義歯の取り外しを行って頂き不十分な部分のお手伝いさせて頂く。義歯洗浄を毎日行い、口腔内の汚れによる肺炎等の勉強もしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄感覚や習慣を活かし、時間ごとの声掛けやトイレ誘導を行う。訴えの無い方へは何時もと違う行動や体動による変化を見逃さず声掛けを行いトイレで排泄出来る支援に努めている。	利用者には、できるだけ下着着用を基本としています。そのために、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して時間や表情などを見ながら声掛け誘導をしてトイレ排泄を行うよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳・水分摂取や食べ物工夫を行い、腹部マッサージ等を行い自然排便をして頂ける様に組み組んでいる。医師と相談しながら便秘による病状予防のため座薬の使用も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一週間に最低2回の入浴を行い、拒否のある方へはタイミングを見ながらの声掛けを行い、時間帯や日を改める事を行う。入浴剤を複数用意し入浴を楽しんで頂ける様支援に努めている。	浴室は広く、三方向介助可能な浴槽のため入浴しやすい構造となっています。週2回以上の入浴を嫌がる利用者もいますが、時間帯や担当者変更などで無理をせず、気持ちよく入浴出来るよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や希望にて昼寝を取り入れ、夜間眠れない方へはスタッフとリビングで一緒に過ごし、飲み物を提供する等状況に合わせて対応し、安心して眠って頂ける様支援に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬の必要性、目的や理由、副作用とリスクを医師へ確認し、カンファレンス等にて職員間で認識理解の確認に努めており、薬が変わった際もスタッフ間で体調等の変化を把握する様に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かしたレクリエーションや食事の用意、縫物等をスタッフと行い、翌日の食事のメニュー書き、日めくりカレンダーの変更をご自身の仕事として役割を持って頂く方もおり張りのある生活を送って頂ける様支援に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は公園や畑へ散歩に出かけ、定期的に外出レクを行い、バイキングなど等で好きな物を選んで召し上がって頂く。ホーム中庭に東屋も設置し、外での食事等いつもと違う楽しみを持って頂ける様支援に努めている。	四季の自然環境に恵まれたホーム周辺を散歩しながら公園や住宅の花壇鑑賞を楽しんでいます。また、四阿（あずまや）やテラスでバイキングやおやつの時間を過ごしたり、車両を利用して花見や工場見学、外食などできるだけ外出の機会を持つようになっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている事で安心されるいらっしゃる、ご家族様同意のもと少額ではあるがお金を持っている方もいらっしゃる。無くなった、取られたとの訴えもあるが安心して頂ける様に傾聴等の支援に努めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでも出来る様にご家族様と話し合いを行っており、プレゼントのお礼の電話が出来る様にスタッフから声が掛けを行う。入居者様からご家族様へ年賀状が送れる様に支援に努めている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を保つため、毎日の掃除とトイレ等1日3回の消毒を行う。汚れた所は都度消毒・清掃を行う。車いすでも自由に動けるスペースの確保を考える。季節に合わせた装飾や入居者様が作成した物を飾り、居心地良く過ごして頂ける様な工夫に努めている。	ホーム開設後9年を経ましたが、内部全体に清潔感が維持され、家族からも清掃が行き届いていると好評評価しています。エアコンやイオン発生空気清浄器が設置されている居間兼食堂は、窓の開口部が広いため明るく、小上がりスペースが多目的に使用され、写真やすだれの飾りなどで暖かみのある雰囲気があります。玄関やトイレ、浴室なども余裕があり、暮らしやすい共有空間が提供されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やソファ、食卓テーブルが有り、入居者様はご自身の好きな場所・落ち着く場所で過ごして頂ける様支援に努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に合わせた寝具や家具を配置し、ご自宅で使っていた馴染み深い家具や日用品を持ち込まれています。安全でご本人様が居心地良く過ごせる居室作りに努めている。	居間兼食堂と同様の開口部の広い窓によって室内が明るく、クローゼットの設置で室内が整理し易くなっています。利用者は、自分好みの家具類やテレビなどを自由に配置して落ち着ける空間にしながらのんびりと安心した暮らしを過ごしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は歩行者や車いすが安全に通れるようになっており、車いすでも自走出来る事を考えている。居室入り口は横扉になっており、ご本人様の写真を貼りご自身の部屋と分かる様な工夫に努めている。			